

熊本学園大学水俣学研究センターでは、カナダ、オンタリオ州の水俣病発生地の先住民代表ならびに映画作家大類義氏を招聘し、カナダにおける水俣病と先住民問題にかんする現地報告講演会、映画上映会を行い、今カナダで起きていることを日本に発信します。

カナダの水俣病

カナダ・オンタリオ州のグラッシー・ナロウズおよびホワイト・ドッグの2つの先住民居留地で、約200キロメートル上流にあるドライデンのパルプ工場から流された水銀によって水俣病がおきています。

1975年以来、原田正純氏らによる数度にわたる現地調査によって水俣病の発生が確認されていますが、1980年代半ばにようやく被害補償制度ができたもののきわめて不十分です。

なお、カナダにおける先住民の水俣病被害に関しては、根強い差別が背景にあり、現地の医療機関や研究者からは無視に等しい扱いを受けてきました。

水俣学研究センターは、現地で二度にわたる実態調査を行ってきました。

カナダ先住民とは

カナダ先住民とは、ヨーロッパ人の移住以前から北米大陸に住んでいた民で狩猟・採集を糧とし広大な土地を季節的に円周移動しながら暮らしていた人々です。

現在は、定められた居住地に暮らすことにより、先住民としての生活保障が認められています。

水銀汚染により生業を奪われるとともに健康障害も起きており、森林開発など課題は山積しています。

現在の課題

水銀汚染による健康障害、生業の喪失とそれに伴う補償は不十分であり、認定制度、被害補償等をめぐる問題に加えて生活基盤の再建が求められています。

2010年4月には、サイモン・フォビスター氏やジュディ・デ・シルバさんを中心にトロントで抗議活動が繰り広げられ

ました。

また、先住民が生活の糧としてきた広大な森林に開発の手が入るとともに、森林伐採が行われており、先住民の大地使用権利侵害としての抗議活動がなお続けられております。

このたびは、日本でほとんど知られていないこれらの問題に関して現地からの招聘者から報告を受け、日本の課題と重ね合わせて考えて行きたいと思っております。

映画「カナダ先住民と水俣病」

大類義作品 90分

この映画は、先住民の、狩猟、漁撈、採集に基づく伝統的な暮らしやフィッシングガイド等の生業が、強制寄宿学校、先住民との協定違反、森林開発、そして水系を汚染した有機水銀等によって破壊されて行く過程を丹念に描くドキュメンタリーです。1969年、水系がメチル水銀によって汚染されていることが明らかになり、以来30年以上にわたり住民調査を行う日本人医師原田正純氏の活動を追い、今日もなお続く問題を鋭く提起しています。

原題「*The Scars of Mercury* (水銀の傷痕)」90分

2009年トロントの国際環境映画祭出品をはじめカナダ各地で上映。日本初公開。

